

経済情勢

概

観

1. 米国の投資景気続伸

9月24日から開催された今次IMF総会においては、ポンドの軟調から交換性回復問題は見送りの形で、インフレ抑制策に関心が集中されたと伝えられる。しかし過去数か月来各国が採用してきた引締政策は、すでに西欧諸国の一部にその成果があらわれ、たとえば西ドイツは9月6日反対に公定歩合の引下げを行い、また英国のごときは物価がほど安定した反面、鉱工業生産が横這いとなり、明年の設備投資は本年を下回るものとみられるに至った。これに対し米国では連銀当局の金融引締政策にもかかわらず、投資増を中心に経済の基調は極めて強く、一部にみられた悲観論も全く影をひそめた（本年の設備投資見込は353億ドルと昨年実績を23%方上回るものとみられている）。硬軟両様の要素の出してきた世界経済の現状に鑑み、この米国の投資景気は少なくともこゝ当分世界景気の重要な支柱となるものと考えられる。

2. 英国『欧州自由貿易地域』に参加か

10月3日マクミラン英蔵相は、目下フランス、西ドイツ、イタリ-およびベネルックス3国の間で折衝中の欧州関税同盟を中心に、他のOECE諸国を加えて新たに形成される欧州自由貿易地域案に関する英国の構想を発表した。本件についてはすでに過日の英連邦蔵相会議においても討議せられており、もしこれが実現することになれば、欧州に対する英国の伝統的な不即不離の政策の大転換として注目されるのみならず、わが国の対欧州貿易にも深刻な影響を与えるものとして、その成行きが注目される。なお英国としてはこれに参加の条件として、農産物の適用除外と英連邦の特恵関税制の維持をあげている。

3. 銀行券の増勢一服と市中貸出の累増

銀行券の増勢はここもと一服の貌であり、平均発行高の前年同月比は10%高程度で、おおむね横這いとなつている。銀行券の動きは国民経済全体の動きと直接間接に密接に結びついているはずで、その点から銀行券の一服は景況全般の落ち着きを想わせがちであるが、最近の金融事情はそれほど単

純なものとは考えられない。

第1に最近における市中銀行貸出の著増に伴い預金通貨の増勢はむしろ強まつており、しかも回転率上昇の気配も窺われる。かようにして現金通貨一服の裏で預金通貨が相当の動きをみせていることは、預金通貨の増勢が若干期間の遅れをもつて現金通貨の増勢をよぶ場合が多い過去の例からみて注目に値しよう。

第2は通貨金融情勢に照応する経済実体面の動向であるが、最近の投資活動は一巡するどころかむしろ活発化の傾向にあるようにみえる。これに伴つて鉄鋼などに生産の隘路が目立ち、物価も投資財を中心にかなりの強調を続けている。7—9月における市中銀行の貸出増加額が昨年約4倍半に達し預金通貨が著しい増勢にあることは、こういう事情と表裏するものにほかならない。しかし一方消費財についてみると、供給力に比較的余裕があり、消費水準の伸びも生産などより遅れているので、消費者物価はおおむね安定を保つている。これが現金通貨増勢一服の主因であり、現下のわが国経済の大きな強味となつている。

しかし投資や生産が水準を高めていくのに、何時までも賃金や消費の水準が上らぬはずはなく、現に根強い漸増気配もみえる。確かに消費財需給の余裕は大幅な拡大経済の安全弁であり、現金通貨の一服もその一つの表われということもできるが、それに過大な期待をかけるわけにはいかないとすれば、供給力不足部門を中心とする需給の動向には深甚な関心を払わねばなるまい。

4. 下期外貨予算の決定

本年度下期外貨予算はこのほど23億41百万ドルと決定した。その特色は経済の拡大に応じ主要原材料の確保を図るとともに、前期に続きグローバル予算やA・A制の拡大など為替自由化を進めたものである。なおこの予算決定に際して国際収支の見通しが改訂されたが、表面は若干の黒字ながら実質的には110百万ドルの赤字となつており、頃来の黒字基調にかなりの変化が生じてきたことを表わすものとして注目される。